

2007年度

安全報告書



安全運行を陰で支える夜間作業

1. ごあいさつ

平素より、いわて銀河鉄道をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

当社は会社発足から6年が経ちました。これもひとえにお客さまをはじめ、地域の皆さまや関係各位のご支援、ご協力の賜と深く感謝申し上げます。

当社は、経営理念に鉄道経営の基本である「安全の確保」を第一の使命とし、法令を遵守するとともに安定輸送に努めております。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4に基づき、輸送の安全確保のための取組みや安全の実態について、自らを振り返るとともに皆さまに広くご理解いただくために公表するものです。皆さまからの声を輸送の安全に役立てたいと存じますので、忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。



I G Rいわて銀河鉄道株式会社
代表取締役社長 照井 崇

2. 輸送の安全を確保するための基本的な考え方および重点目標

(1) 輸送の安全確保に関する基本的な考え方

当社では、安全の確保に関する基本的な考え方を「安全に関する基本的な方針」として、平成18年10月1日に制定した「安全管理規程」において次のように定め、社長以下、全社員に周知徹底し「事故ゼロ」を目指して取り組んでいます。

一致協力して輸送の安全確保に努めます。

輸送の安全確保に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを厳守し、厳正、忠実に職務を遂行します。

常に輸送の安全に関する状況の理解と確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取扱いをします。

事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとります。

情報は漏れなく敏速、正確に伝え、透明性を確保します。

常に問題意識を持ち、必要な変革に継続的かつ果敢に挑戦します。

(2) 安全確保のための重点目標

「重大事故・重大インシデント」の撲滅

* 重大事故・重大インシデントとは、航空・鉄道事故調査委員会の調査対象となった事故などをいい、列車事故（衝突・脱線・火災）や乗客の死亡事故などをいう

(3) 重点目標に対する実績

(単位：件)

年 度	2003	2004	2005	2006	2007
項 目					
列車事故（衝突・脱線・火災）	0	0	0	0	0
乗客の死亡事故など	0	0	0	0	0

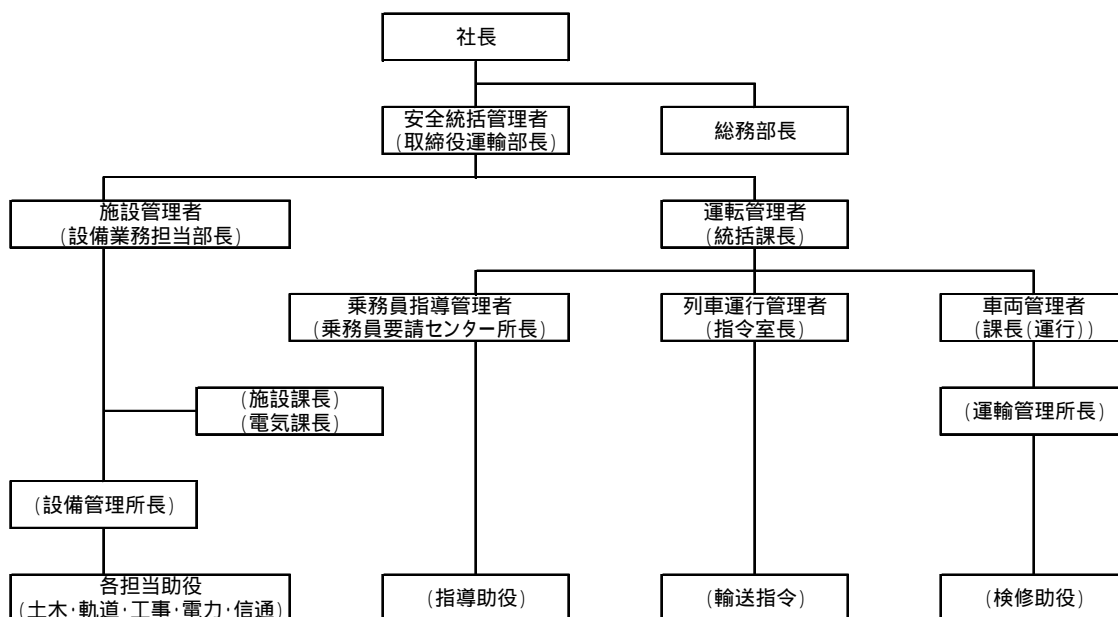
3. 安全管理体制

当社では、平成19年10月に鉄道事業法の一部を改正する法律が施行されたこととともない、安全管理体制を確立し、輸送の安全の水準の維持および向上を図ることを目的として、安全管理規程を制定しました。この規程には、輸送の安全を確保するための基本的な方針などのほか、鉄道事業における安全の確保に関する組織体制、責任者の役割と権限などを定めています。

(1) 安全管理体制

社長を最高責任者とし、輸送の安全の確保に関する業務全体を統括する安全統括管理者をはじめ、運転管理者、乗務員指導管理者、施設管理者などの各責任者の責任体制を明確にして、安全管理体制(H19.7社内組織改正に伴う)を再構築しました。

安全管理組織



2007年7月1日現在

安全管理者の役割

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運 転 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
施 設 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する。
車 両 管 理 者	運転管理者の下、車両に関する事項を管理する。
乗務員指導管理者	運転管理者の下、乗務員の資質保持に関する事項を管理する。
列車運行管理者	運転管理者の下、輸送計画の作成及び指令業務に関する事項を管理する。
総 務 部 長	安全に係る投資、予算及び要員計画等を管理する。

(2) 安全管理体制の周知

毎月開催される「現場長連絡会議」では、社長および取締役運輸部長から各部課長及び各現場長に「IGRにとって安全の確保は最大の使命であり、役員・社員が一丸となって取り組むように」との冒頭訓辞から始まり、社長以下、安全に対する意識高揚及び安全管理体制の構築に周知・徹底を図っています。

4. 鉄道事故等の発生状況

(1) 鉄道運転事故

2007年度の発生はありません。

(2) 災害（地震、暴風雨などによる鉄道施設への被害）

9月17日～18日にかけて東北地方に停滞していた秋雨前線を台風11号が刺激し、記録的な大雨による河川増水等で46本の列車が運休(区間運休を含む)、12本に大幅な遅延(31分～6分)が生じました。

前年度は災害等による輸送障害(3件)より発生件数は少なかったものの、ご利用の皆さまには、大変ご迷惑をおかけしました。

(3) 輸送障害（運休や30分以上の遅延）

2007年度に発生した輸送障害の内訳は、雨害・自殺・車内・線路故障・動物支障が各1件、車両故障が2件で、合計は7件でした。内訳は以下の通りです。

- ・7月7日にカモシカと衝突し運休4本、4本の列車に大幅遅延(90分から38分)が、発生しました。
- ・7月16日に滝沢駅構内で人身障害の影響で2本の列車が運休し2本の列車に22分～5分の大幅な遅延が生じました。
- ・9月17日～18日にかけて秋雨前線の影響で、全線で大雨となり46本が運休12本の列車に31分～6分の遅延が生じました。
- ・11月24日に太田踏切内で、踏切マット止めボルトに衝撃した影響で1本の列車に35分の遅延が生じました。
- ・12月・2月に車両故障(CI装置)^{5ページ参照}が発生し、3本が運休、5本の列車に29分～4分の遅延が生じました。また、寝台車内暴力事件による遅延が2本の列車に42分から24分の遅延が発生しました。

(4) インシデント（事故の兆候）

2007年度に東北運輸局に報告したインシデントはありません。

(5) 行政指導等

2007年度に東北運輸局からの行政指導はありません。

5. 表彰受賞

役員、全社員及び協力会社が輸送の安全確保に一丸となって取り組んできた結果、2006年10月14日に、東北運輸局長から無事故事業者(鉄道事業)表彰を頂きました。

今年は、2005年11月1日から2007年10月31日までの二期2年に対する表彰に向け、いわて銀河鉄道は、さらに無事故を継続できるよう安全確保に努めてまいります。



無事故事業者(鉄道事業)の表彰状

6. 安全への取組み

(1) 安全の風土づくり

安全教育の徹底

乗務員養成及びフォローアップ研修体制の確立

毎月、訓練会を実施し、電車の各装置の仕組みや運転理論、また実際に発生することを想定した車両故障時等の対応・処置方法等について教育・指導に取り組んでいます。

また、乗務員のフォローアップとして、9月に社外の研修機関を活用し、安全レベルの向上も図りました。2007年度は8名が研修しました。

SAS（睡眠時無呼吸症候群）に関する教育は、定例の訓練会で実施しました。

お客さまの信頼に応え、運転士、車掌の資質を高めるため、昨年設立した養成センターの教育の充実を図っているほか、運転士・車掌の他職場研修（ぎんが指令・駅等）を実施し、指令・駅員との連携を迅速に適切な対応がとれるよう教育しています。

アルコール検知器の使用

交通関係従事員としての飲酒問題に対してお客さまや社会からの信頼に応えるため、運転士と車掌には、出勤時にアルコール検知器を使用して、酒気を帯びていないことを確認してから乗務を開始しています。

駅プロパー社員の運転取扱い訓練

ぎんが指令員が教官となり、駅プロパー社員の運転取扱いに関する知識や技能の習得・向上を図るため、年間6回の実務訓練を実施しました。また、レール輸送等の入換えを、担当ごとの作業に従事（見習い）させ、制御盤・転てつ器等を実際に取扱う訓練を行い、技術の継承に努めています。



入替え訓練の様子

社外養成センター活用による研修

設備関係若手社員の知識や技術の習得のため、社外の養成センターの活用を図り、今年度は2名の研修を実施しました。

安全に関する定例会議の開催と意見交換会の実施

指令、運輸管理所、設備管理所では職場毎の定例の安全会議を開催しているほか、指令と各職場及び協力会社を含めた意見交換会を逐次開催し、安全に関する課題と対応方について議論し、業務に反映しています。

基本動作とルールの徹底

「指差し、声出し、確認」行動訓練を毎朝の点呼の活用や繁忙期の添乗指導などを実施しました。また、社員の身心状態の確認や次の勤務把握などを行い、点呼の厳正に努めたほか、点呼時に安全への一言注意を実施しました。

旅行業関係社員による添乗員の適切な判断、安全な行程管理の向上のため、四半期毎に勉強会を実施したほか、実務添乗による指導を行いました。

安全対策の点検とレベルアップ

事故情報の共有化

「他山の石」を活用した検討会を各職場で実施し、安全レベルの向上に努めました。

工事現場への安全パトロール実施と保安体制の確認、指導

工事現場への安全パトロールの実施と保安体制の確認、指導を昼夜合わせて、延べ120回実施しました。

安全総点検の実施

社長以下、各部課長が各現場の点呼状況、輸送状況や輸送の安全を確保する取組みなどについて確認するとともに、社員への激励を行っています。

また、各運動期間中は、対策本部を設置し連絡体制の強化を図り、安全運行確保に努めました。

- ・GW期間中における輸送の安全確保について（4月27日～5月7日）
- ・夏季における輸送の安全確保について（7月14日～8月20日）
- ・年末年始の輸送等に関する安全総点検の実施について（12月8日～1月7日）

安全を向上させる仕組みづくり

社長以下各部課長、全現場長が出席し、安全推進委員会を2ヶ月に1回開催しています。

当社で発生した事故等の発生状況、原因とその要因および再発防止対策を審議し、関係各部門間で情報の水平展開を図り、安全管理体制の確立・向上に努めています。

また、安全衛生推進委員会を3ヶ月に1回開催しています。



安全推進委員会

社員や委託社員などの安全衛生に関する重要事項、職場環境の改善等について審議し、健康障害や労働災害の防止に努めています。

また、全社員から安全標語を募集し、165点（参加率86.8%）の応募の中から「続けます基本動作と無事故の決意」が最優秀賞に選ばれました。

この標語を各職場に掲示し社員の安全意識の高揚を図りました。

(2) 車両・設備の計画的な整備

2007年度は、CI装置の故障が多発したことから、安全・安定輸送を確保するため、メーカーと打合せを重ね故障時の対応と連絡体制の強化を図りました。また、毎月の協力会社との車両検査共同使用設備の相互診断及び意見交換を実施しました。

その他、軌道検測車による線路や架線等の設備状況のデータを活用した厳正な保守管理を実施しました。

CI装置とは、主変換装置のことをいい、交流型電車（新幹線も含む）の走行のための主要な制御装置で、コンバータ部（交流 直流への変換。別名：整流、順変換）と、インバータ部（直流 交流への変換。別名：逆変換）を一つのユニットにしたものをいう。

(3) 異常時対応の強化及び早期運転再開に向けた取組み

異常時訓練会の実施

10月17日に信号機故障・車両故障(伝令法施行)、踏切障害、レール折損などの異常時を想定した実車を使用した訓練を実施しました。6月14日にはJR貨物会社東北支社主催の総合復旧訓練の中で、貨物車両の脱線復旧及び解結訓練を実施しました。

9月1日の防災訓練では、社長以下本社員、現場社員の非常参集訓練や対策本部を設置し情報伝達訓練等を実施しました。

さらに設備管理所と年2回、本社・指令員・乗務員・各協力会社を含め、平常時・異常時の意見交換会を実施しました。また、10月15日には事故災害発生(梅雨・台風・大雪等)を想定し、事前に協力会社と一体となって復旧機材の点検や取扱い訓練を実施しました。

異常時における情報連絡体制の強化

ぎんが指令から本社、駅・作業現場、協力会社および部外機関等への連絡体制の見直し整備を図りました。

災害等事故発生時には、ぎんが指令から「異常時・緊急時召集体制表」に基づき、携帯電話等による事故概況報告が伝達され、事故に対する体制強化を図っています。

輸送影響の最小化

防災システム(鉄道沿線に設置した雨・風・地震・積雪・温度・河川水位等の計器からの情報システム)の活用とマイコスV(日本気象協会ネットサービス)及び気象警報発令時などの情報収集により、予測可能なリスクに対する的確な対応を実施しました。

鉄道テロ対策

国土交通省は「鉄道テロ対策」の危機管理レベルの設定・運用を開始していますが、当社でもテロの未然防止のため、レベルに応じた標準保安措置を講じています。

- ・各駅での不審物のチェック及びゴミ箱の点検
- ・折り返し時の車両点検、留置車両の施錠の徹底
- ・指令室内の巡回

安全のための支出

設備・車両の安全性の維持・確保のため、設備投資・修繕を計画的に実施しています。開業以来6年間の安全のための設備投資・修繕費の状況は以下の通りです。

平成19年度の安全のための支出は設備投資額で約2800万円、修繕で約16億1900万円です。引き続きお客様に安心してご利用いただけるよう取組んで参ります。

	平成14年度 ²	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
修繕費	152,833	1,291,410	1,537,660	1,565,198	1,571,312	1,619,552
建設費	0	43,498	40,349	21,770	71,244	28,910
合計	152,833	1,334,908	1,578,009	1,586,968	1,642,556	1,648,462

1 列車走行に関わる修繕費(列車^{*} / 換算車両^{*} / パンタ^{*})の合計金額

2 H14年度は12月から3月までの4ヶ月間

7. お客さま、沿線の皆さま、関係者の皆さまとともに
当社では、地域住民の方々、警察署、消防署とともに協力して事故防止を図っています。
また、沿線の皆さまへのPR活動をすすめています。

(1) 関係者の皆さまとの協力体制

こども110番の駅

学校への登下校の際に子供が犯罪の被害に遭う機会が多発していることから、鉄道事業者により全国的に「こども110番の駅」の取組みを実施しています。

当社では、有人の駅に「こども110番の駅」の目印となるステッカーを貼り、子供が駅に助けを求めてきた場合に、子供の保護や110番通報などの対応がとれるようにしています。



ステッカー

消防署との人命救助合同訓練

現場社員がお客さまの救命処置を的確に行うように、AED（自動体外式除細動器）を含んだ普通救命講習会を地元消防署のご指導、ご協力で9月5日に開催、20名が受講し、普通救命技能修了証を取得しました。当社では、新入社員教育のカリキュラムにとりいれています。



救命技能講習の様子

* 講習の種類

- ・心肺蘇生法
- ・止血法
- ・外傷の手当法
- ・AEDの取扱方法

(2) お客さま、沿線の皆さまへのPR活動

小学生への鉄道安全教室の実施

10月1日に、奥中山小学校（一戸町）、11月6日に小鳥谷小学校（一戸町）において、踏切事故防止や列車妨害防止などの安全教室を開催しました。



小鳥谷小学校での鉄道安全教室

踏切事故防止対策

全国交通安全運動旬間での取組み

春（5月11日～5月20日）

秋（9月21日～9月30日）

馬頭踏切（他5箇所）等において、踏切注意事項などを記したチラシ、弊社グッズを配布して、踏切の安全通行を呼びかけ事故防止の啓発を行いました。

(3) お客さまへのお願い

列車妨害防止へのお願い

2007年度は、鉄道施設侵入による輸送障害は(遮断桿折損^{しゃだんかん})が8件発生しました。列車の安全な輸送にご協力をいただくとともに、障害を発見した場合は、直ちにぎんが指令（0120-674140）までご連絡くださいますようお願いいたします。

踏切でのお願い

踏切事故の多くは、無理な直前横断によるものです。

- ・警報機が鳴り始めたら、踏切内に入らないで下さい。
警報機が鳴り始めたら、電車がすぐ近くに来ています。
危険ですから電車の通過を待って、安全を確かめてからお渡し下さい。
- ・万が一、車が踏切内に閉じこめられたときは、あわてず、遮断桿（踏切の棒）を押して脱出して下さい。遮断桿を押すように車を前進させると遮断桿が持ち上がりますので、そのまま脱出して下さい。踏切内で車が動けなくなったときや、踏切付近で異常を発見したときは、すぐに非常ボタン（押しボタン式踏切支障報知装置）を押して下さい。非常ボタンはカバーの上から強く押して、速やかに踏切の外など安全な場所に避難して下さい。



押しボタン式踏切支障報知装置

*非常ボタンを押したときは、フリーダイヤルでぎんが指令にご連絡下さい。
(フリーダイヤルは、非常ボタンの下に掲示してあります。)

農業用ビニール等の架線への飛来防止のお願い

農業用ビニール等が強風で飛ばされて架線に絡むと列車の運行に支障が生じます。農業用ビニール等は風に飛ばされないよう保管、管理してください。



架線に飛来した農業用ビニール

迷惑行為に対するお願い

駅及び車内で喧嘩などの暴力行為、痴漢などの迷惑行為を見かけた場合は、駅係員、乗務員にお知らせ下さい。



さわやかマナーアップキャンペーンポスター

沿線にお住まいのみなさまへ

安全な列車運行を行うためには、鉄道施設の保守工事が必要です。極力、ご迷惑をおかけしないように努めておりますが、保守工事による騒音や振動でご迷惑をおかけする場合もございます。なにとぞ、ご理解とご協力をお願いします。

8 . 安全報告書へのご意見に対する連絡先

今後の参考とさせていただきますので、本報告書へのご意見、ご感想につきましてお寄せ下さい。

連絡先 IGRいわて銀河鉄道株式会社 運輸部
〒020-0066 岩手県盛岡市上田一丁目2番32号
TEL : 019-652-9800 (代表) FAX : 019-606-5547
URL <http://www.igr.jp> e-mail : ginga@igr.jp
月～金 8:30～17:30 (祝祭日を除く)

発行 / 2008年9月